

## 静岡県人権施策推進計画の各指標進捗状況(令和2年度分)

(福祉長寿局地域福祉課人権同和対策室)

## 1 指標の進捗評価(令和2年度)

## (1) 総合指標の進捗評価

人権啓発センターを中心として、あらゆる場における人権教育・人権啓発に継続的に取り組んできた結果、県民の人権尊重の意識は上下しながらも、総合指標である『人権尊重の意識が生活の中に定着した住み良い県となっている』と感じる人の割合は、令和2年度の調査では「**48.2%**」となった。基準値である38.8%(平成27年度)を9.4ポイント上回り、進捗率は、83.9(進捗率70%以上100%未満)となったことから、**進捗度は「B」**とした。

直近5か年で見ると、40%程度で推移している状況が続いていることから、県民の人権意識の高揚に向けて、より一層の推進が必要である。(参考：令和3年度39.5%)

## 【総合指標】

(単位：%)

目標項目 (総合指標)	27 (基準値)	28	29	30	元	2 (進捗率)	3	目標
「静岡県が人権尊重の意識が生活の中に定着した住み良い県となっている」と感じる人の割合	38.8	38.9	37.1	45.3	38.1	<b>48.2</b> <b>(83.9)</b>	39.5	50%以上
平成27～30年度、令和2～3年度：県政世論調査 令和元年度：人権問題に関する県民意識調査								

※令和3年度からの指標は、『「静岡県が人権尊重の意識が生活の中に定着した県である」と感じる人の割合』に変更

## (2) 個別指標の進捗評価

## ① 目標を達成又は上回る進捗 (A=進捗率100%以上) 11 指標

計画指標	H27実績	R2目標	R2実績 【進捗率】	進捗度	所管課(室)
困っている人がいる時は、手助けをすると答える児童生徒の割合(高校)	高 89.1% (H26)	高 90%	高 92.4% 【366.7】	A	高校教育課
自分にはよいところがあると答える児童生徒の割合(高校)	69.4% (H26)	72%	78.7% 【357.7】	A	教育政策課
人権教育に関する校内研修を実施した学校の割合	93.8% (H26)	95%以上	97.6% 【316.7】	A	教育政策課
困っている人がいる時は、手助けをすると答える児童生徒の割合(中学校)	中 87.5% (H26)	中 90%	94.7% 【288.0】	A	義務教育課
犯罪被害者支援に関する行政担当職員の受講者数	50人 (H26)	50人	138人 【276.0】	A	くらし交通安全課
自分にはよいところがあると答える児童生徒の割合(中学校)	68.7% (H26)	72%	76.4% 【233.3】	A	教育政策課

困っている人がいる時は、手助けをすると答える児童生徒の割合(小学校)	小 86.2% (H26)	小 90%	92.7% 【171.1】	A	義務教育課
看護教育養成講習会等の参加人数(累計)	404人 (H26)	454人	463人 【118.0】	A	地域医療課
ふじのくに『ケータイ・スマホルール』アドバイザー登録者数	82人	350人	413人 【123.5】	A	社会教育課
市町の家庭教育支援チームの組織数	6チーム	33チーム	35チーム 【107.4】	A	社会教育課
虐待による死亡児童数	3人 (H26)	0人	0人 【100.0】	A	こども家庭課

②目標に近い進捗（B＝進捗率70%以上100%未満）4指標

計画指標	H27実績	R2目標	R2実績【進捗率】	進捗度	所管課(室)
人権啓発講座等参加人数(H9～)	407,895人 (H26)	577,895人	562,349人 【90.9】	B	人権同和对策室
障害者雇用率	1.86%	2.3% (R03 暫定)	2.19% 【75.0】	B	労働雇用政策課
ゆずりあい駐車場制度の民間協力施設数	1,102施設 (H27)	1,200施設 (R06)	1,143施設 【74.5】	B	地域福祉課
市町DV防止ネットワークの設置	28市町 (H26)	全35市町	33市町 【71.4】	B	こども家庭課

③目標からやや遠い進捗（C＝進捗率70%未満）4指標

計画指標	H27実績	R2目標	R2実績【進捗率】	進捗度	所管課(室)
自分にはよいところがあると答える児童生徒の割合(小学校)	小 78.1% (H26)	小 82%	79.7% 【41.0】	C	教育政策課
エイズカウンセラー派遣回数(H16年度からの累計)	32回 (H26)	47回	34回 【13.3】	C	感染症対策課
自立し社会参加していると感じている障害のある人の割合	45.4% (H24)	70%	48.3% 【11.7】	C	障害者政策課
地域で子どもを育む活動に積極的に参加した人の割合	9.6% (H26)	22%以上	10.5% 【7.3】	C	社会教育課

④進捗していない又は当初よりマイナス（D＝進捗率0%以下）4指標

計画指標	H27実績	R2目標	R2実績【進捗率】	進捗度	所管課(室)
学校が楽しいと答える児童生徒の割合(小学校)	小 89.9% (H26)	小 93%	小 89.9% 【基準値以下】	D	義務教育課
学校が楽しいと答える児童生徒の割合(中学校)	中 87.7% (H26)	中 90%	中 87.7% 【基準値以下】	D	義務教育課
学校が楽しいと答える児童生徒の割合(高校)	高 84.4% (H26)	高 87%	高 83.8% 【基準値以下】	D	高校教育課
社会参加促進事業の実施市町数	33市町 (H26)	全35市町	22市町 【基準値以下】	D	障害福祉課

⑤令和2年度実績がない又は未確定なもの 8指標

計 画 指 標	H27 実績	R2 目標	R2 実績	進捗度	所管課(室)
			【進捗率】		
外国人に親しみを感じる割合	34%	51%	—	—	多文化共生課
性別にかかわらず個性と能力を發揮できる機会が確保されていると思う県民の割合	28.5%	50%以上	—	—	男女共同参画課
「男は仕事、女は家事・育児」という役割分担意識にとらわれない男性の割合	60.1%	毎年度60%以上	—	—	男女共同参画課
過去1年間にドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人の割合	3.4%	基準値より減少	—	—	男女共同参画課
過去1年間にセクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人の割合	2.7%	基準値より減少	—	—	男女共同参画課
「青少年の健やかな育成のための環境が整備されている」と感じる人の割合	25.3%	—%	—	—	社会教育課
自立高齢者(援護を要しない高齢者)の割合	84.8% (H25)	90%以上	—	—	長寿政策課
介護サービス利用者の満足度	82.2% (H25)	90%以上	—	—	長寿政策課

<評価基準>

各指標の進捗率により区分

進捗度	内 容
A	進捗率 100%以上
B	進捗率 70%以上 100%未満
C	進捗率 70%未満
D	進捗率 0%以下
—	実績がない又は未確定なもの

## 2 個別評価内容

### (1) 総合指標

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R2 目標	R2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
「静岡県が人権尊重の意識が生活の中に定着した住み良い県となっている」と感じる人の割合	38.8%	50%以上	48.2% 【83.9】	B	地域福祉課 人権同和対策室
<p>(評価)</p> <p>地道な人権啓発活動により、県民の人権尊重の意識は高まってきているものの、平成24年度の調査以降は40%前後の数値で推移しており、令和2年度は、目標値である50%には達しなかったものの、48.2%と高い割合となった。県民の意識の高揚を図ることの出来る課題を捉えながら、引き続き目標値50%の達成を目指し、人権施策を推進していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の38.8%から目標値の50%までは11.2ポイント。一方、R2実績は48.2%で9.4ポイントの進捗であった。50%達成時の進捗率を100とすると、R2年度の進捗率は<math>9.4 / 11.2 \times 100 = 83.9</math>となり、70%以上のため、進捗度は「B」とする。</p>					

### (2) 個別指標

#### 家庭における人権教育

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R2 目標	R2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
市町の家庭教育支援チームの組織数	6 チーム	33チーム (R01)	35チーム 【107.4】	A	社会教育課
<p>(評価)</p> <p>平成27年度から毎年度、家庭教育支援員養成講座を実施したことにより、養成した家庭教育支援員は400人となり、支援員を中心にそれぞれの地域の特性に応じた家庭教育支援活動が行われた。また、支援員や行政担当者、専門家等を構成員とする家庭教育支援チームが全ての市町（政令市を除く）に組織され、目標を達成している。</p> <p>今後も、全ての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、支援員の養成と資質・能力の向上に向けた取組を行うとともに、家庭教育支援チームの活動を促進し、幅広い家庭教育支援活動を推進していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の6チームから目標値の33チームまでは27チーム。一方、R2実績は35チームとなり、基準値からは29チーム増の進捗であった。目標達成時の進捗率を100とすると、R2の進捗率は<math>29 / 27 \times 100 = 107.4</math>となり、目標値を超えていることから、進捗度は「A」とする。</p>					

## 学校における人権教育

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
人権教育に関する校内研修を実施した学校の割合	93.8% (H26)	95%以上	97.6% 【316.7】	A	教育政策課 人権・教員育成班
<p>(評価)</p> <p>令和2年度に人権教育に関する校内研修を実施した学校の割合は前年度比0.6ポイント増加し、目標値を2.6ポイント上回る結果となったことから、人権教育に対する学校の関心の高まりがうかがえる。</p> <p>近年、GIGA スクール構想など学校を取り巻く情勢が大きく変化していることから、人権教育のより一層の推進が不可欠であると考え、今後も、人権教育に関する研修会を実施するとともに、校内研修の機会を設けるよう管理職等に働きかける。</p> <p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の93.8%から目標値の95%までは1.2ポイント。一方、R2実績は97.6%で3.8ポイント増の進捗であった。目標達成時の進捗率を100とすると、R2実績の進捗率は<math>3.8/1.2 \times 100 = 316.7</math>となり、目標値以上のため、「A」とする。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
学校が楽しいと答える児童生徒の割合	小 89.9%	小93%	小89.9% 【基準値以下】	D	義務教育課 (小・中)
	中 87.7%	中90%	中87.7% 【基準値以下】	D	
	高 84.4%	高87%	高83.8% 【基準値以下】	D	高校教育課 (高)
	(H26)	(H29)			
<p>(評価)</p> <p>昨年度と比べると小学校では2.6%、中学校では1.4%上昇したものの、小・中学校共に、目標値を下回った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校の教育活動を制限したことが大きな原因であると考え。道徳科や特別活動を通して「人権教育の手引き」や「人間関係づくりプログラム」等を効果的に活用し、望ましい人間関係づくりを推進すると共に一人一人の心のケアにも努めていくことが重要だと考える。教職員間、保護者、地域、外部機関等との連携し、児童生徒の問題行動等の早期発見、早期解決に向けての取組の充実を図っていく。(義務教育課)</p> <p>高等学校における「学校が楽しいと答える児童生徒の割合」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業等もあり、令和元年度実績の84.9%に比べるとやや低下して目標値には届かなかったものの、平成30年度実績の82.6%からは上昇した。</p> <p>令和2年度は24校をスクールカウンセラー拠点校、また3校をスクールソーシャルワーカーの拠点校として、悩みを抱える生徒を支援するとともに、全ての生徒が互いに理解・尊重し、人権に対する正しい理解や人権感覚を高める人権教育の充実に努めた。(高校教育課)</p> <p>(進捗率の考え方)</p> <p>小中高それぞれの基準値から目標値までは、小3.1ポイント、中2.3ポイント、高2.6ポイント。一方、R2実績は小0.0ポイント、中0.0ポイント、高-0.6ポイントであった。小中高それぞれの目標値達成時の進捗率を100とすると、R2年度の進捗率は小 <math>0.0/3.1 \times 100 = 0.0</math>、中 <math>0.0/2.3 \times 100 = 0.0</math>、高 <math>-0.6/2.6 \times 100 = -23.1</math> となり、それぞれの進捗度は、基準値以下となることから、小「D」、中「D」、高「D」とする。</p>					

## 地域社会における人権教育

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
地域で子供を育む活動に積極的に参加した人の割合	9.6% (H26)	22%以上 (R01)	10.5% 【7.3】	C	社会教育課
<p>(評価)</p> <p>地域学校協働活動推進員の養成等、地域学校協働活動を促進したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校が休業し活動が縮小したこと等もあり、地域で子供を育む活動に積極的に参加した人の割合は、基準値よりは増加したものの、目標は達成できなかった。</p> <p>引き続き、地域学校協働本部の整備促進のほか、「放課後子供教室」や「しずおか寺子屋」の実施等、地域ぐるみ、社会総がかりで子供を育む取組を推進していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の9.6%から目標値の22%以上とするまでは12.4ポイント。一方、R2実績は10.5%で0.9ポイントの進捗であった。目標達成時の進捗率を100とすると、R2の進捗率は<math>0.9 / 12.4 \times 100 = 7.3</math>となり、進捗率70%未満のため、「C」とする。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
「青少年の健やかな育成のための環境が整備されている」と感じる人の割合	25.3%	—	— 【—】	—	社会教育課
<p>(評価)</p> <p>青少年指導者を養成し活用を図るとともに、「青少年声掛け運動」等により、青少年育成のための環境整備に努めた。なお、平成30年度より県民対象調査から外れたため、令和2年度実績及び目標値の数値はなし。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>令和2年度実績なしのため、進捗率の評価なし。</p>					

## 県民への人権啓発

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
人権啓発講座等参加人数 (H9年度からの累計)	407,895人 (H26)	577,895人	562,349人 【90.9】	B	地域福祉課 人権同和対策室
<p>(評価)</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座等を縮小・中止したことから、全体で18,940人の参加にとどまった。今後は、感染症対策を取りながら、県民の人権意識の高揚を図るため、各種講座や講演会等を実施していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>平成27～28年度は、年間25,000人、平成29年度以降年間30,000人の参加（6年間で170,000人）で進捗率100としており、H27～R2の6年間で154,454人の参加を得た。R2年度終了時点の進捗率は、<math>154,454 / 170,000 \times 100 = 90.9</math>となり、70%以上となることから、進捗度は「B」とする。</p>					

## 女性をめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
性別にかかわらず個性と能力を發揮できる機会が確保されていると思う県民の割合	28.5%	50%以上	— 【—】	—	男女共同参画課
<p>(評価)</p> <p>基準値から改善しているが、目標値との隔たりは大きい。機会が確保されていると思う女性の割合が低いことから、関係課や関係団体と連携し、あらゆる分野における女性の参画拡大や環境整備を図っていく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>2年に1度の調査（令和元年度実施）のため、R2実績での進捗評価なし。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
「男は仕事、女は家事・育児」という役割分担意識にとらわれない男性の割合	60.1%	毎年度60%以上	— 【—】	—	男女共同参画課
<p>(評価)</p> <p>令和元年度では、目標値をわずかに下回った。今後もあらゆる機会や媒体を通じた広報・啓発活動により、固定的な性別役割分担意識の解消や男性の意識改革を推進していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>2年に1度の調査（令和元年度実施）のため、R2実績での進捗評価なし。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
過去1年間にドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人の割合	3.4% (女性5.6% 男性1.0%)	基準値より減少	— 【—】	—	男女共同参画課
<p>(評価)</p> <p>令和元年度では、基準値より数値が後退している。DVの認知度向上による顕在化も増加の一因と考えられる。今後もシンポジウム等による啓発活動を行っていく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>2年に1度の調査（令和元年度実施）のため、R2実績での進捗評価なし。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
過去1年間にセクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人の割合	2.7% (女性4.2% 男性1.0%)	基準値より減少	— 【—】	—	男女共同参画課
<p>(評価)</p> <p>令和元年度では、基準値より数値が後退している。セクハラ認知度向上による顕在化も増加の一因と考えられる。今後もシンポジウム等による啓発活動を行っていく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>2年に1度の調査（令和元年度実施）のため、R2実績での進捗評価なし。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
市町DV防止ネットワークの設置	28市町 (H26)	全35市町	33市町 【71.4】	B	こども家庭課
(評価)					
市町におけるDV防止ネットワークの設置数は2市町の増となったものの、33市町に留まり、目標を達成できなかった。地域の関係機関が連携して支援を行う体制づくりを一層進めるため、引き続き、未設置の市町への働きかけを行っていく。					
(進捗率の考え方)					
基準値の28市町から目標値の全35市町までは7市町。一方、R2実績は33市町で5市町の進捗であった。目標達成時の進捗率を100とすると、進捗率は、 $5/7=71.4$ となり、70%以上となることから、進捗度は「B」とする。					

## 子どもをめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
困っている人がいる時は、手助けをすると答える児童生徒の割合	小86.2%	小90%	小92.7%	A	義務教育課 (小・中)
	中87.5%	中90%	中94.7%	A	
	高89.1%	高90%	高92.4%	A	高校教育課 (高)
	(H26)	(H29)	【171.1】 【288.0】 【366.7】		
(評価)					
小・中学校共に目標値を達成することができた。道徳科の授業等を通してコロナ禍におけるいじめや誹謗中傷等の人権教育を取り上げた例も多々見られた。今後も道徳の時間を要とし、学校教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、「自他を大切に思いやりの心」を育てていく。誰一人取り残さない教育の充実を教職員も心がけ、人権教育に取り組む。(義務教育課)					
高等学校における「困っている人がいる時は、手助けをすると答える児童生徒の割合」については、平成30年度実績の90.8%、令和元年度実績の91.7%に続き、3年連続で目標値を超える結果となった。各学校において道徳教育の全体計画を作成し、道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深める指導の充実を図るとともに、令和2年度は多くの高等学校において、新型コロナウイルス感染症に関連する誹謗中傷を防止する授業等を実施した。(高校教育課)					
(進捗率の考え方)					
小中高それぞれの基準値から目標値までは、小3.8ポイント、中2.5ポイント、高0.9ポイント。一方、R2実績は小6.5ポイント、中7.2ポイント、高3.3ポイントであった。小中高それぞれの目標値達成時の進捗率を100とすると、R2年度の進捗率は、 小 $6.5/3.8 \times 100 = 171.1$ 、中 $7.2/2.5 \times 100 = 288.0$ 、高 $3.3/0.9 \times 100 = 366.7$ となることから、それぞれの進捗度は、小「A」、中「A」、高「A」とする。					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R2 目標	R2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
自分にはよいところがあると答える児童生徒の割合	小78.1%	小82%	79.7% 【41.0】	C	教育政策課 人権・教員育成班
	中68.7%	中72%	76.4% 【233.3】	A	
	高69.4%	高72%	78.7% 【357.7】	A	
	(H26)				
(評価)					
令和2年度に「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合は、小学生は目標値を2.3ポイント下回ったものの、中学生及び高校生はいずれも目標値を上回った。					
今後も、学校教育を通じて児童生徒一人一人の人格を尊重し、発達段階に応じた指導により、自尊感情や人権感覚を高められるよう、教職員を対象とした研修会等を通じて、人権教育の推進を図っていく。					
(進捗率の考え方)					
小中高それぞれの基準値から目標値までは、小3.9ポイント、中3.3ポイント、高2.6ポイント。一方、R2実績はそれぞれ小1.6ポイント、中7.7ポイント、高9.3ポイントの増であった。小中高それぞれの目標値達成時の進捗率を100とすると、R2の進捗率は、					
小 $1.6/3.9 \times 100 = 41.0$ 、中 $7.7/3.3 \times 100 = 233.3$ 、高 $9.3/2.6 \times 100 = 357.7$ となる。					
小について、進捗が70%未満のため「C」、中・高は目標値以上のため、「A」とする。					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R2 目標	R2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
学校が楽しいと答える児童生徒の割合 (再掲)	小 89.9%	小93%	小89.9% 【基準値以下】	D	義務教育課 (小・中)
	中 87.7%	中90%	中87.7% 【基準値以下】	D	
	高 84.4%	高87%	高83.8% 【基準値以下】	D	高校教育課 (高)
	(H26)	(H29)			
(評価)					
昨年度と比べると小学校では2.6%、中学校では1.4%上昇したものの、小・中学校共に、目標値を下回った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校の教育活動を制限したことが大きな原因であると考え。道徳科や特別活動を通して「人権教育の手引き」や「人間関係づくりプログラム」等を効果的に活用し、望ましい人間関係づくりを推進すると共に一人一人の心のケアにも努めていくことが重要だと考える。教職員間、保護者、地域、外部機関等との連携し、児童生徒の問題行動等の早期発見、早期解決に向けての取組の充実を図っていく。(義務教育課)					
高等学校における「学校が楽しいと答える児童生徒の割合」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業等もあり、令和元年度実績の84.9%に比べるとやや低下して目標値には届かなかったものの、平成30年度実績の82.6%からは上昇した。					
令和2年度は24校をスクールカウンセラー拠点校、また3校をスクールソーシャルワーカーの拠点校として、悩みを抱える生徒を支援するとともに、全ての生徒が互いに理解・尊重し、人権に対する正しい理解や人権感覚を高める人権教育の充実にも努めた。(高校教育課)					
(進捗率の考え方)					
学校における人権教育の欄を参照					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
虐待による死亡児童数	3人 (H26)	0人	0人 【100】	A	こども家庭課
(評価) 虐待予防に関する普及啓発活動やSNS (LINE) を活用した相談窓口の設置のほか、児童福祉司及び児童心理司の増員、警察職員の配置など児童相談所の体制強化に取り組んだ結果、「虐待による死亡児童数」は0人となり目標を達成することができた。					
(進捗率の考え方) 基準値3人に対し、R 2 実績は0人であり、R 2 年度の進捗率は100とした。(仮に1人減であれば進捗率33.3、3人減であれば進捗率100) そのため、進捗度は「A」とする。					

## 高齢者をめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
自立高齢者(援護を要しない高齢者)の割合	84.8% (H25)	90%以上 (H29)	— 【—】	—	長寿政策課
(評価) 令和2年度実績なし					
(進捗率の考え方) R 2 実績なしのため、進捗評価なし					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
介護サービス利用者の満足度	82.2% (H25)	90%以上 (H29)	— 【—】	—	長寿政策課
(評価) 令和2年度実績なし					
(進捗率の考え方) R 2 実績なしのため、進捗評価なし					

## 障害のある人をめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
障害者雇用率	1.86%	2.3% (R03 暫定)	2.19% 【75.0】	B	労働雇用政策課
(評価) 県内企業の障害者雇用率は年々上昇し、令和2年度は基準値(1.86%)より0.33ポイント上昇し、過去最高となったが、目標値には達していない。法定雇用率は、令和3年3月に2.3%に引き上げられたため、今後も目標達成に向け、企業への働きかけを一層強化していく。					
(進捗率の考え方) 基準値の1.86%から目標値の2.3%(暫定)までは0.44ポイント。一方、R 2 実績は2.19%で0.33ポイントの進捗であった。目標達成時の進捗率を100とすると、進捗率は0.33/0.44×100=75.0となり、目標値の70%以上のため、進捗度は「B」とする。					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目標	R 2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
社会参加促進事業の実施市町数	33市町 (H26)	全 35 市町	22市町 【基準値以下】	D	障害福祉課
<p>(評価)</p> <p>障害者の社会参加を促進するため、34 市町において地域の実情に応じた社会参加促進事業を実施しているが、そのうちの 12 市町が新型コロナウイルスの感染予防の観点から令和 2 年度の事業の実施を見合わせたため、事業実施市町数は 22 市町にとどまっている。令和 3 年度以降については、感染対策にも配慮した持続的で効果的な事業実施を支援していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>R 2 実績は、新型コロナウイルス感染症の影響により 22 市町での実施となった。基準値 33 市町から目標値の全 35 市町までは 2 市町であるが、R 2 実績は 22 市となり、基準値以下となることから、進捗度は「D」とする。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目標	R 2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
ゆずりあい駐車場制度の民間協力施設数	1,102施設 (H27)	1,200 施設 (R06)	1,143施設 【74.5】	B	地域福祉課
<p>(評価)</p> <p>令和 2 年度は 18 施設から新たに協力を得た。今後も制度の周知を図り、協力施設数の上乘せを目指していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の 1,102 施設から目標値の 1,200 施設 (R6) までは 98 施設。これを令和 6 年度までに達成するためには 1 年間で約 11 施設の上乗せが必要であり、令和 2 年度時には 55 施設が目標となる。一方、H28～R2 実績は 41 施設の進捗であった。令和 2 年度時の目標値を 100 とすると、令和 2 年度の進捗率は、<math>41/55 \times 100 = 74.5</math> となることから、進捗度は「B」とする。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目標	R 2 実績 【進捗率】	進捗度	所管課
自立し社会参加していると感じている障害のある人の割合	45.4% (H24)	70% (H29)	48.3% 【11.7】	C	障害者政策課
<p>(評価)</p> <p>障害のある人の生活の場の確保や就労支援などにより、地域での自立した生活を支援しているが、目標は達成できなかった。</p> <p>今後は、障害者差別解消のための取組や、一人一品運動などによる工賃向上、手話通訳者の養成等による情報保障の充実などにより、障害のある人の多様な社会参加を促進する。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の 45.4%から R 2 目標値 70%までは、24.6 ポイント。一方、R 2 実績は 48.3%で 2.9 ポイントの進捗であった。目標達成時の進捗率を 100 とすると、進捗率は <math>2.9/24.8 \times 100 = 11.7</math> となり、目標値の 70%未満のため、進捗度は「C」とする。</p>					

## 同和問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
人権教育に関する校内研修を実施した学校の割合（再掲）	93.8% (H26)	95%以上	97.6% 【316.7】	A	教育政策課 人権・教員育成班
(評価) 令和2年度に人権教育に関する校内研修を実施した学校の割合は前年度比0.6ポイント増加し、目標値を2.6ポイント上回る結果となったことから、人権教育に対する学校の関心の高まりがうかがえる。 近年、GIGA スクール構想など学校を取り巻く情勢が大きく変化していることから、人権教育のより一層の推進が不可欠であると考え、今後も、人権教育に関する研修会を実施するとともに、校内研修の機会を設けるよう管理職等に働きかける。					
(進捗率の考え方) 学校における人権教育の欄を参照					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
人権啓発講座等参加人数 (H9年度からの累計)（再掲）	407,895人 (H26)	577,895人	562,349人 【90.9】	B	地域福祉課 人権同和对策室
(評価) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座等を縮小・中止したことから、全体で18,940人の参加にとどまった。今後は、感染症対策を取りながら、県民の人権意識の高揚を図るため、各種講座や講演会等を実施していく。					
(進捗率の考え方) 県民への人権啓発の欄を参照					

## 外国人をめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
外国人に親しみを感じる割合	34%	51%	— 【 — 】	—	多文化共生課
(評価) 令和元年度に調査終了のため、令和2年度実績はなし。					
(進捗率の考え方) R 2 実績なしのため、進捗評価なし。					

## 感染症患者等をめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
エイズカウンセラー派遣回数 (H16年度からの累計)	32回 (H26)	47回	34回 【13.3】	C	感染症対策課
<p>(評価)</p> <p>静岡県エイズカウンセラー派遣事業実施要領に基づき、臨床心理士等の資格を持つエイズカウンセラーの派遣を、令和2年度までの目標の47回に対して34回実施し、陽性者又はその家族の精神的不安の軽減を図り療養生活の安定を図った。</p> <p>今後も引き続き事業の周知等を通じて医療機関及び保健所と連携し、陽性者又はその家族が希望する場合に、専門的なカウンセリングの機会を提供していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の32回からR2目標値47回までは15回。一方、R2実績は34回で基準値からは2回の増加であった。目標達成時の進捗率を100とすると、進捗率は、<math>2/15 \times 100 = 13.3</math>となり、目標値の70%未満のため、進捗度は「C」とする。</p>					

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
看護教育養成講習会等の参加人数 (累計)	404人 (H26)	454人	463人 【118.0】	A	地域医療課
<p>(評価)</p> <p>看護教員となるための専任教員養成講習会は令和元年度に開催した。(県看護協会へ委託)(2年に1度開催。次回は令和3年度)</p> <p>R3年度開催の専任教員養成講習会の受講者は26人となっている。</p> <p>今後も、看護教育を通じた看護職員の養成により、感染症患者等をめぐる人権問題に関する取組を推進していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の404人から目標値の454人までは50人。一方、開催は2年に1度のため、1回あたり平均の目標値は25人となる。R2までの実績でみると463人で、59人の増であったことから、目標値である50人の進捗率を100とすると、進捗率は、<math>59/50 \times 100 = 118.0</math>となり、進捗度は「A」とする。</p>					

## 犯罪被害者等をめぐる人権問題

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
犯罪被害者支援に関する行政担当職員 の受講者数	50人 (H26)	50人 (H29)	138人 【276.0】	A	くらし交通安全課
<p>(評価)</p> <p>犯罪被害者等に対する途切れのない関係機関の連携を強化するため、自治体職員、警察及び犯罪被害者等支援関係機関・団体による合同研修会を県内3会場で開催した。</p> <p>138人の内訳は、行政職員76人、警察職員35人、関係機関職員27人であった。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値は50人で、目標値も同数となっている。R2実績は、138人受講したことから、進捗率は、<math>138/50 \times 100 = 276.0</math>となり、目標値を超えていることから、進捗度は「A」とする。</p>					

## インターネットによる人権侵害

計 画 指 標	H27実績 (基準値)	R 2 目 標	R 2 実 績 【進捗率】	進捗度	所管課
ふじのくに『ケータイ・スマホルール』 アドバイザー登録者数	82 人	350人	413人 【123.5】	A	社会教育課
<p>(評価)</p> <p>「ケータイ・スマホルール」アドバイザー養成講座を継続して開催し、アドバイザー登録者数は目標を達成した。スマートフォン等の所持率増加や低年齢化とともに、学校においては教育のICT化が進展する等、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しており、アドバイザーの活動を通じ、「家庭で話し合ってルールを作る」ことの大切さを普及啓発することにより、引き続き正しく安全なネット利用を促進していく。</p>					
<p>(進捗率の考え方)</p> <p>基準値の 82 人から目標値の 350 人までは 268 人。一方、R 2 実績は 413 人で準値か基準値からは 331 人増の進捗であった。目標達成時の進捗率を 100 とすると、R 2 の進捗率は <math>331 / 268 \times 100 = 123.5</math> となり、目標値を超えていることから、進捗度は「A」とする。</p>					